

(一) 支那政府ニ於テ事實上ノ行為ニ依リ大正四年ノ日支條約

ヲ確認シタリト見做シ得ル事例アラバ其ノ概要

(二) 支那政府ガ憲法上国会ノ同意ヲ要スベキニ拘ラズ之ヲ得

ズシテ行ヒシ國際取極又ハ宣戰等ニ付最近ノ事例アラバ

其ノ概要

(三) 大正四年日支條約ノ批准ニ際シ國会ノ同意ヲ取付ケザリ

シ理由

事項五 第四回國際連盟總会關係

二四三 五月七日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第四回連盟總會議題通報ノ件

(五月八日接受)

連第八五号

理事会議長「ウッド」氏ノ名ニ於テ九月三日午前十一時第

四回連盟總会ヲ壽府ニ召集スル旨事務総長ヨリ通牒ニ接シ

タリ其ノ議題左ノ如シ

一、全權委任状審査報告委員ノ選挙

二、議長選挙

三、議事日程ノ審査及採択

四、諸委員会ノ任命及其ノ議長選挙

五、副議長六名ノ選挙

六、理事会及事務局ノ事業並総会決議ノ実行ニ關スル報告

七、軍備縮小第三總会ノ訓令遂行ノ為取リタル措置ニ關ス

ル混成委員会ノ報告

八、奴隸問題

九、規約第十条改正(加奈陀ノ提案)

五 第四回国際連盟総会関係 一四四

ニ付託スルコト

一四、一九二四年ノ予算第三会計年度決算ノ審査

一五、愛蘭ノ国際連盟加入請求及規約第一条第二項ニ從ヒ

提出セラルルコトアルヘキ加入ノ諸請求

一六、理事会ニ於ケル有期六理事ノ選挙

一四四 七月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)

ボー・ランド公使ヨリ非常任理事改選ニ際シ同

國候補者支持方依頼越シノ件

付記 右ニ閔シボーランド公使、欧米局長ヲ訪問ノ件

第四二〇号

二十五日在京波蘭公使欧米局長ヲ來訪第四回連盟総会ニ於ケル非常任理事改選ニ閔シ同國カ未タ一回モ理事ヲ出シタルコトナキハ大戰後其ノ政情安定セサル為メ自ラ進ンテ入选ヲ希望セサリシニ外ナラサル処今ヤ事態安定ヲ告ケタルヲ以テ今回ハ是非入選致度ニ付帝国政府ノ支持ヲ得度旨申出タリ理事ノ改選ニ閔シテハ本年モ各國ノ運動相當激シカルヘキヲ以テ波蘭ノミニ止マラス各方面ノ事情ヲモ考慮スルノ必要アリ就テハ本件ニ閔スル隨時ノ状況貴見ト共ニ電

モ確メタル上決定スルヲ可トス

二四五 八月八日 在アルゼンティン国沢田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ウルグアイ公使ヨリ非常任理事改選ニ際シ同

國ノ立候補支持方依頼越シノ件

第五九号

八月六日当地駐在烏国公使來訪本年度連盟総会ニ於テ理事改選ノ際烏国カ引続キ理事國ノ選ニ入ル様日本ノ支持ヲモ得タク右同國政府ノ訓令ニ依リ其ノ希望トシテ帝国政府ニ伝達アリタキ旨依頼アリタリ尚同公使持參ノ右希望ノ理由ヲ記セル覺書内容ハ要領郵報ス

在米大使ヘ転電セリ

一四六 八月十五日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

グアニ・ウルグアイ公使ヨリ非常任理事選挙

ノ際同國ニ投票方要請ノ件

第一七七号

(八月十六日接受)

当地「ウルグアイ」公使ニシテ連盟理事会員タル「グア

報アリタシ
波蘭ヘ転電アリ度シ

(付記) 非常任理事改選ニ際シボーランド國候補者支持方依頼ノタメ

同國公使欧米局長ヲ訪問ノ件

大正十二年七月二十五日在本邦波蘭公使「パーテック」氏ハ松平欧米局長ヲ本省ニ來訪シ本年ハ恰モ第四回非常任理事改選期ニ當レル処元来波蘭カ未タ一回モ理事ヲ出シタルコトナキハ大戰後同國ノ政情未タ安定セサル為メ自ラ進テ入選ヲ希望セサリシニ外ナラス然ルニ今ヤ事態安定ヲ告ケ

國境モ亦既ニ確定セシヲ以テ今回ハ是非入選方ヲ希望スル次第ナルニ付日本政府ニ於テモ援助ヲ与ヘラレタク元来日波両国ハ極テ親善ナル關係ニアルカ故ニ波蘭ノ入選ハ日本ノ為メニ有利ナル場合アルヘキヲ信スト述ヘタルニ依リ松平局長ハ自分一個トシテハ好意的考量ヲ加フルニ吝ナラザルモ何レ政府ノ態度決定ノ為メ右希望ノ趣旨ハ上局ニ伝ヘ置クヘキ旨挨拶シ置ケリ

(欄外註記) 帝国理事へノ訓令方ハ連盟係ニ於テ取計ハレ度シ非常任理事ノ改選ニ付テハ本年モ大分運動激シ模様ナリ從テ一般ノ關係ヲモ察シ且石井理事ノ意見ヲト能ハサル次第ナレハ至急東京ニ電訓ヲ仰クヘキ旨答ヘ置キタリ右ハ或ハ理事会及ヒ總会ノ一般形勢ニ依リ決定スヘキモノトモ存セラルモ不取敢申進ス
仏、瑞西ニ転電セリ

連第一九一号

(八月二十一日接受)
内田外務大臣宛(電報)

総会追加議題通報ノ件

二七、規約第一六条ノ改正(英國政府提案)

二八、或種中等教育学位(diplômes de l'enseignement

secondaire) ノ各國リ於ト総合的リ有効ナハシマル事國
陸大学ノ組設連盟各國リ於ト有効ナル高等教育学位ヲ作
ル事 (degré d'enseignement supérieur) (西班牙政府
提案)

一一九、「シモネーヴ」州及市ヨリ連盟リ寄付シタル地所上
リ余額建設リ関スル報告 (議事規則第四条第一項「B」
リ依ハ)

一一〇 八月二十一日 在パリ松田連盟事務局長ニ

学位統一及シ国際大学設置リ置スルベマ

政府提案ノ件

(八月二十一日接収)

往電第十九一號リ闕ハ

議題第一八学位及国際大学リ関スル西班牙政府提案左ノ如
シ

1° Les Diplômes de l'Enseignement secondaire ne
conférant pas le droit d'exercer la profession, seront
valables dans tous les différents États aux effets de pou-
voir y suivre le cours de l'enseignement supérieur.

八月一日在「シモネーヴ」帝國(「トスラビエ」)ニニ憲盟
加入請求提出アリ総会議題第一十五中リ追加セハル

一一〇 八月二十一日 在パリ松田連盟事務局長ニ
内田外務大臣宛(電報)

連盟規約第十六条改正リ関スル英國政府提案

ノ件

連第一九六号

(八月二十一日接収)

往電第一九一號リ闕シ規約第十六条改正英國政府提案左ノ
如シ

1' 本条第一項中 The prohibition 云々左ノ如ク改正ベ
本改正文案ハ第一回総会採用ノ本項改正文案リ代ルヤハト
メ

And to prohibit any intercourse even if not between
their nationals and the nationals of the covenant-break-
ing state, at least between persons resident within their
territories and persons resident within the territory of
the covenant-breaking state and to prevent all financial,
commercial or personal intercourse, even if not between
the nationals of the covenant-breaking state and the na-
tionals of any other state whether a member of the

2° La création de l'Université internationale au-
tonome avec la juridiction et la franchise académiques
dans une des quatre Universités de la chrétienté: Paris,
Salamanque, Oxford ou Boulogne avec le privilège pour
conférer des degrés et pour délivrer des diplômes ayant
la valeur académique dans tous les États des membres
de la Société des Nations. Les professeurs devront être
choisis parmi les éminentes et les personnalités intellec-
tuelles scientifiques sans égard pour leur nationalité.

3° La création dans l'Université de chacun des
États des membres de la Société des Nations d'un Degré
d'Enseignement supérieur dans les facultés et le cours
de hautes études dont les diplômes conféreraient l'apti-
tude nécessaire dans les différents États pour l'exercice
de la profession, le minimum enseignement devra être
même dans les différents États.

一一〇 八月二十一日 在パリ松田連盟事務局長ニ
往電第十八五号リ闕ハ

総会ノ追加議題通報ノ件

(八月二十一日接収)

連第十九四号

League or not, at least between persons resident within the territory of that state and persons resident within the territory of any other state whether a member of the League or not.

1' 現行条文第一項リシテ第一回総会改正条文第五項トナ
ルニヤく in such case 増改ノハカル外務長官ニ
除スル事

一一一 八月二十一十七日 在シヨネーヴ連盟事務局長(電報)
常任理事増員リ置ハカル外務長官ニ

持方依頼ノ件

第一一七号

石井理事ク

常任理事増員ノ件リ闕ハ
在「シヨネーヴ」代理大使ヨリ左記要領ノ來電アリタル処本
件リ関スル政府ノ方針ハ大体客年往電第四四五号ノ通リナ
リ

伯利西爾ノ第四回総会リ於ト西班牙ノ協力シ常任理事国ヲ
六ヶ島ハノ國リト新地位ヲ占メハニユア企団シ内々運動計

ナル處英ハ右増加案ニ不賛成ナルモ日、仏、伊ニ於テ異議ナクバ強イテ反対セザル模様ナリ仏伊両国ハ伯国ヲ援助シ吳ルモノト期待シ居レルニ付本件ニ付キ帝国ノ支持ヲ得タキ旨同国外務長官ヨリ依頼アリタリ

在仏大使ヘ転電アリタシ

編註 「日本外交文書」大正十一年第三冊四四六頁参照

二五二 八月二十九日（着）
内田外務大臣宛（電報）
「**ブラジル國ノ常任理事希望支持方同国外務大臣ヨリ懇請ノ件**

第五〇号
本使着任挨拶ノ為過日外務大臣ヲ訪問セルニ對シ答礼トシテ同大臣ハ二十六日本使ヲ來訪シ談話中西班牙伯刺西爾両國ガ連盟理事会へ四大國ト同様永久的ニ其国代表者ヲ出席セシメントスル希望ニ対シ帝国政府ニ於テモ伯国ノ為之ヲ支持セラル様本使ヨリ電請方特ニ同大臣ヨリ懇団ノ次第有之且大臣ハ付言シテ是迄右希望ニ対シ各國ノ同意ヲ得難カリシハ本件ニ関シ西班牙、伯刺西爾両國ノ意見ノ（脱）為ナリシモ今ヤ両国意見一致シ今後ハ相提携シテ希望ノ達成

第五〇号
本使着任挨拶ノ為過日外務大臣ヲ訪問セルニ對シ答礼トシ

テ同大臣ハ二十六日本使ヲ來訪シ談話中西班牙伯刺西爾両國ガ連盟理事会へ四大國ト同様永久的ニ其国代表者ヲ出席セシメントスル希望ニ対シ帝国政府ニ於テモ伯国ノ為之ヲ支持セラル様本使ヨリ電請方特ニ同大臣ヨリ懇団ノ次第有之且大臣ハ付言シテ是迄右希望ニ対シ各國ノ同意ヲ得難カリシハ本件ニ関シ西班牙、伯刺西爾両國ノ意見ノ（脱）為ナリシモ今ヤ両国意見一致シ今後ハ相提携シテ希望ノ達成

ヲ期スベキ事ヲ約スルニ至リタレバ最早此点ハ憂フルニ足ラズ加之仏、伊、白耳義ハ伯国ノ希望ヲ支持スペシトノ言明ヲ与ヘ英國ハ主義トシテ連盟理事会代表者数ノ増加ニ反対ナルモ關係国ガ凡ベテ同意ヲ与フル以上ハ英國モ強ヒテ之ニ反対セザルノ意向ナルガ如シト云ヒ尤モ本件ニ付テハ石井大使ヨリ既ニ本邦政府ヘ打電アリタル筈ナルモ本使ヨリモ更ニ再電方ヲ懇請スル次第ナリト云ヘリ本件ニ關シ我國トンテモ此際明確ニ伯国ノ希望拒絶ノ態度ニ出ズルハ今後対伯国關係上頗ル不利タルハ御賢察ニ難カラズト信ズ已ム無クンバ英國ト同様ノ態度ニ出ズベキ乎外務大臣ヘ回答ノ必要上何分ノ御回電ヲ請フ

仏及西ヘ転電セリ

二五三 八月三十日
内田外務大臣在ジュネーヴ連盟総会代表宛（電報）
「**総会仮議題中主要事項ニ関スル政府ノ方針二**

ツキ訓令ノ件

別電一 同日内田外務大臣在ジュネーヴ連盟総会代表宛電報第一五号

財政經濟問題ニ關シ訓令ノ件

二 同日同電報第一六号

追テ松田「ジュネーヴ」発電第六号ニ關シ

商事仲裁条項ニ關スル議定書案ニツキ訓令ノ件

三 同日同電報第一七号

外国人及ビ外國企業ノ待遇ニ關スル勧告案ニツ

付記

通商局總務課作成（通商公報ニ於テ公表）

第四回国際連盟総会ニ於ケル本邦全權ノ財政経

濟問題ニ關スル活動

究中ナリ

（別電一）

八月三十日内田外務大臣在ジュネーヴ連盟総会代表宛電報

第一五号

財政經濟問題ニ關シ訓令ノ件

第一四号

第四回国際連盟総会仮議題中主要ノモノニ關スル政府ノ方針ハ屢次ノ通報ニヨリ既ニ御了知ノ筈ニテ此際特ニ申進スヘキ程ノコト少キモ左ノ諸点御考量相成度シ

一、連盟経費分担ニ關シテハ規約改正ノ未ダ効力ヲ發生セザル關係モアルニ付往電第三五四号ノ趣旨ニ依リ本邦ノ負担輕減方特ニ御尽力アリ度シ

二、愛蘭及其ノ他諸国ノ連盟加入問題ニ付テハ大勢ニ順応シ独逸ノ加入問題ニ付テハ客年往電第四四八号末段ノ趣意ニ依ルコトト致シ度シ

三、規約第十六条ノ改正提議及國際大學設置ニ關スル西國

ノ提議ニ關シテハ追テ何分ノ儀電報ス可ク財政經濟問題ニ關シテハ別電第一五、一六、一七号ノ通

回連盟総会ノ際理事会ヨリ為シタル指令ニ基キ又國際連盟協会総会ニ於テ本件ニ付為シタル決議等ヲ参照シ更ニ充分研究ヲ進ムヘキコトヲ決議スルコトセラレタシ
三、次ニ通商平衡待遇問題及交通ノ自由ノ問題ニ関連シ各連盟国カ国内法ニ依リ各國カ内国船舶ニノミ留保シ得ヘキコトヲ經濟委員会及交通委員会ニ付托スルコトトシ以テ各連盟国ニ於テ沿岸貿易ニ留保シ得ヘキ範囲ハ成ルヘク之ヲ局限シ又右留保範囲ト雖既ニ我条約改正調査委員会ノ決議ヲ經タルカ如ク之ヲ相互開放スルノ主義ヲ採用セシムルノ機運ヲ釀成セシムルコトニ御尽力アリタシ

財政経済問題ニ関スル訓令案説明

一、本財政経済仮委員会ハ其創設以来財政経済上ノ諸問題攻究ニ從事シ戰後ニ於ケル經濟復興ニ尽瘁貢献シタルハ連盟各国ノ認ムル所ニシテ特ニ財政仮委員会ノ担当シタル塊國救済問題經濟仮委員会ノ担任シタル通商平衡待遇問題ニ關シテハ其事績著シキモノアリ即チ前者ニ関シテハ救済ニ関スル主義綱領ヲ確立シ後者ニ属スル事項トシテハ既ニ税

関手続会議案、不正競争防止ニ関スル會議案、商事契約中ニ挿入セラルル仲裁條項議定書案、外国人及外国企業ノ待遇ニ関スル勧告案ノ作成ヲ了シ近ク之カ最終的決定ヲ見ントス右ノ如ク本委員会ノ事績顯著ナルモノアリト雖然モ尙研究ヲ之ニ待ツモノ鮮少ナラサルノミナラス寧ロ重大ナル問題ニ関シテハ未タ一指モ之ニ触レ居ラザルノ状態ナリ例へハ國際二重課税、外国人ノ居住及企業、外国船舶ノ待遇、鐵道運賃、沿岸貿易等ノ諸問題ハ連盟規約第二十三条规定通商ノ衡平待遇ニ属スル事項トシ将又經濟回復乃至國際貿易促進ノ見地ヨリ今後研究解決ヲ要スヘキ諸問題中ニハ交通委員会担当ノ事項ニモ関連シ今後永続的研究ヲ遂クルヲ要スルモノアリ右ノ事実並既ニ右交通委員会カ連盟ノ常設機關トナリ居ル事實ニ鑑ミ本委員会ヲ連盟ノ一常設機關トスルヲ妥当ナル措置ト認ム

二、通商平衡待遇問題ニ属スル諸事項ニ関シ前記ノ如ク數個ノ會議案及勧告案ヲ作成スルニ至リタルモ更ニ重要ナル問題ニシテ未着手ノ儘残存セルモノ尠カラサルハ前記ノ如シ就中沿岸貿易相互開放ノ問題ハ海運政策上重要な關係

ヲ有シ既ニ条約改正調査委員会ニ於テ決議セル所ニ係リ爾來「バルセロナ」交通會議ニ於テモ右方針ヲ宣明シ右ヲ目的トスル一般國際條約締結ニ關シ努力スル所アリシモ何等具体的の成果ヲ得ルコト能ハサリシカ經濟仮委員会ニ於テハ前記ノ如ク通商平衡待遇問題ニ属スル比較的容易ナル数個ノ事項ヲ議了シタルヲ以テ此際本問題ノ研究ヲ提議シ以テ右主義ヲ採用セシムルト共ニ國法ニ依リ各國カ内国船舶ニノミ留保シ得ヘキ沿岸貿易ナルモノノ範囲ヲ研究セシムルコト緊要ナリト認ム

(別電二)
八月三十日同電報第一六号
商事仲裁条項ニ関スル議定書案ニツキ訓令ノ件
第一六号
商事仲裁条項ニ関スル議定書案ニ付テハ重ナル国カ之ニ記名調印スルノ事ニ出ソルニ於テハ帝国代表者ニ於テモ同様ノ措置ヲ採ルヘシ尚左ノ事項ハ主トシテ条項辞句ノ疑義ヲ明ニスルコトヲ目的トスルモノニシテ之ニ重キヲ置ク次第ニハ非ルモ機宜ニ応シ成ルヘク此趣意ヲ達スルコトニ注意セラレタシ

第一条

(別電三)
八月三十日同電報第一七号
外国人及外国企業ノ待遇ニ関スル勧告案ニ関シ
一、本勧告案ハ主トシテ課税上ノ内国民待遇ヲ規定セルニス

第八条

連盟国タル自治殖民地ハ第五条ニ依リ当然締約国トナルヘキモノト認メラル本条ノ適用ヲ受ケサルコトヲ明ニスルコト
契約ノ条項中ニ仲裁ノ手続ニ関スル定アルモ其手續カ仲裁ノ行ハルル國ノ法律上行ハルヘカラサルモノナルトキハ其定ニ従ハサルノ趣旨ヲ明ニスルコト

第一七号

外国人及外国企業ノ待遇ニ関スル勧告案ニ関シ
一、本勧告案ハ主トシテ課税上ノ内国民待遇ヲ規定セルニス

止マリ外国人ノ待遇ニ関スル主義ヲ掲記セルモノトシテハ不満足ナリ即チ第四条動産不動産ノ取得、所有ニ関シテハ單ニ最惠国待遇ニ止メ居ル処右ノ内少クモ動産ニ付テハ内国民待遇ノ付与ヲ規定スヘク又入國ヲ許サレタル外国人ノ待遇トシテ最重要ナル産業權付与ニ関シ何等規定スル所ナキニ付右ニ對シテハ原則トシテ内国民待遇又特別ノ例外ノ場合ニハ最惠国待遇ヲ付与スヘキモノナリトス

仍テ本件討議ノ際勧告ハ連盟国ノ遵守スヘキ最低程度ノ主義ヲ列記セルニ過キサルニ付各国ハ右規定以外ノ事項

ニ亘リテモ衡平寛大ナル待遇ヲ付与スヘキコト望マシキ旨ヲ声明セラルト共ニ出来得ヘクハ右趣旨ノ一条ヲ加フルコトニ努力セラレ度ク凡テ今後經濟委員会ニ於テ通商衡平待遇問題ニ關シ更ニ研究ヲ遂ケ本勧告案ヨリモ一層外国人ノ待遇ニ關シ寛大ナル條約案又ハ勧告案ヲ提議シ得ルノ地歩ヲ造リ置カレ度シ

二、本勧告案条項ヲ通シ

又ハ

トアルニ付独立国案ニ非サル連盟国タル英國自治領等ハ包含セラレサルヤノ疑アリ又第一〇条ノ除外範囲内ニモ

政經濟仮委員会ノ名ヲ付シタル所以ナリ爾來同委員会ハ各

國ニ於ケル財政經濟上ノ諸問題研究ニ從事シ戰後ノ經濟回復乃至國際貿易促進ニ尽瘁貢獻シタルコト尠ナカラス例ヘハ財政上ノ問題ニ關シテハ換國救濟問題、二重課稅問題、手形法統一問題、商事契約中ニ插入セラルル仲裁條項等又經濟上ノ問題ニ關シテハ商業上ノ不正競爭、外国人及外国企業ノ待遇、税関手続等ノ諸問題ノ攻究ヲ試ミタリ而テ右ノ攻究ヲ遂ケ既ニ具体的成案ヲ見ルニ至リタルモノハ換國救濟問題ノ一部、商事契約中ニ插入セラルル仲裁條項、外國人及外國企業ノ待遇及税關手續ニ關スルモノトス

右委員会ノ前記功績ニ對シテハ各國ノ均シク之ヲ多トスル

處ナリ然レトモ既ニ成案ヲ見タルハ前記ノ如ク僅ニ三、四ニ過キス今後同委員会ノ研究ニ俟ツモノ甚タ多キノミナラニシテ特ニ我国カ世界經濟復興ノ一日モ速カナランコトヲ顧慮シ第一回連盟総会以來機會アル毎ニ高調セル通商衡平待遇問題ニ屬スル諸事項ニ關シテハ尚研究ヲ要スル所甚タ大ナルモノアリ右ノ事情ニ鑑ミ政府ニ於テハ去ル九月三日ヨリジユネーヴニ於テ開催ノ第四回国際連盟総会ニ於ケル

入ラサルヤニ見ユルニ付出來得ヘクハ各案中ヨリ右曖昧ノ原因タル 及 フ削ラシムルカ

又ハ独立國家ニアラザル連盟國モ本勧告ノ主義ヲ同様遵奉スルヲ要スルモノナル趣旨ノ一条ヲ加フルコトニ努メラレ若シ成立セサルトキハ本年五月開催ノ經濟仮委員会

通商衡平待遇問題小委員会ニ於ケル本勧告案討議席上松田委員ノ質問ニ對シ英國委員ノナセル説明（在仏大使来电連第九九号ノ三）ヲ公式議事録ニ残スヘキ様適當ノ措置ヲ採ラレ度シ

（付記）

第四回国際連盟総会ニ於ケル本邦全權ノ財政經濟問題ニ關スル活動 通商局總務課作成（通商公報ニ於テ公表）

國際連盟ニ於テ財政經濟問題ニ關スル攻究施設ヲ担当セル機関ハ財政經濟仮委員会ナルカ抑モ該委員会ハ戰後ニ於ケル世界財政經濟上ノ復旧ニ必要ナル諸問題ヲ研究セシムル為メ大正九年十二月瑞西国ジユネーヴニ開催ノ第一回連盟総会ノ決議ニヨリ創立セラレタルモノナリ然ニ諸般ノ理由ニヨリ之ヲ連盟ノ常設機關トスルヲ得サル事情アリシヲ以テ一時之ヲ仮ニ設置スルコトトセラレタリ是レ之ニ對シ財

我全權ニ對シ先ツ同委員会ヲ常設機關トスルコトヲ提議セシムルト共ニ通商衡平問題ノ徹底的研究ヲ期スルコト就中沿岸貿易ニ關シ各國カ内國船舶ニノミ留保シ得ヘキ之力範囲ヲ攻究シ右内國船舶ニ留保シ得ヘキ範囲ト雖成ルヘク之ヲ局限スルト共ニ其ノ留保範囲ト雖又之ヲ相互解放スルノ主義ヲ採用セシムルノ氣運ヲ作ラシムヘキコトヲ訓令セリ右ノ外通商衡平待遇問題ニ屬スル一事項トシテ當リ同委員会ノ成案ニ係ル前顧外国人及外国企業ノ待遇ニ關スル勸告案ニ關シ同案ハ主トシテ課稅上ノ内国民待遇ヲ規定セルニ止リ外国人ノ待遇ニ關スル主義ヲ掲記スルモノトシテハ不満足ニシテ即チ動産不動産ノ取得所有ニ關シテハ單ニ最惠國待遇ニ止メ居リシヲ以テ少クモ動産ニ付テハ内国民待遇ノ付与ヲ規定スヘク又入國ヲ許サレタル外国人ノ待遇トシテ最重要ナル産業權付与ニ關シテモ何等規定スル所ナカリシヲ以テ右ニ關シテハ原則トシテ内国民待遇又特別ノ例外ノ場合ニハ最惠國待遇ヲ付与スヘキモノナルコトヲ指摘シ要スルニ同勧告ハ外国人及外国企業ノ待遇ニ關シ連盟國ノ遵守スヘキ最低程度ノ主義ヲ列記セルニ過キサルニヨリ各国ハ此等以外ノ事項ニ亘リテモ衡平寛大ナル待遇ヲ付

与スヘキコトノ望マシキ旨ヲ声明スヘキ旨ヲ訓令セリ

右訓令ニヨリ前記第四回連盟総会ノ第一委員会（経済問題担任）ニ於テ本邦委員ハ左ノ通声明セリ

(一)日本委員ハ財政経済仮委員会ノ業績ヲ多トシ且通商上ノ外国人待遇及外国企業ニ関スル同委員会作成ノ勧告案ヲ審査スルコトヲ幸トス

昨年総会ニ対スル報告書ニ關シテハ本問題ハ決定ノ氣運ニ達セサルモノト認メラレタルカ國際通商ノ増進完成ニ

関スル極メテ重大ナル問題ノ存スルニ鑑ミ本委員会ハ本問題ニ關シ勧告案ヲ作成シタルカ連盟規約第二十三条ノ通商平衡待遇ノ基礎的原則ノ適用タル本問題ニ付左ノ趣旨ニヨリ更ニ適當ナル考慮ヲ加フヘキコトヲ勧奨ス即チ本委員会ハ現在迄其勧告案ニ於テ課税上ノ外国人ノ待遇及其ノ企業ヲ規定スルニ止マリタル処日本委員ハ各連盟國ハ外国人力商工業上自国人ト同等ノ待遇ヲ受クル為外國人ニ供与スヘキ更ニ一般的便宜ニ付考慮スルヲ要ストノ意見ヲ有ス

(二)沿岸貿易力地方ニ依リ本国ト人類ノ公道タル大海ヲ隔テタル遠隔ノ領土トノ航海ヲモ意味スルコトハ國際通商衝

平待遇ノ一般精神ニ適応セサルモノト認ム依テ日本委員ハ委員会カ現在迄ニ完了セル其ノ研究ノ結果ニ基キ交通委員会ト協力シ更ニ其ノ審議ヲ繼續ゼンコトヲ希望ス尙前頃財政経済仮委員会ヲ常設トスル件ニ付テハ総会開催前理事会ニ於テ之ヲ決議シ居リタルヲ以テ本邦委員ハ同委員会ノ過去ニ於ケル業績ヲ賞揚シ理事会カ之ヲ永続ノモノト為シタルノ決議ヲ推賞セリ

右委員会ノ提案ハ其ノ努力ニヨリ沿岸貿易ニ關スルモノヲ除クノ外ハ総会ニ対スル同委員会ノ報告中ニ記入セラレ總会ノ承認ヲ經タリ仍テ今後前記財政経済委員会ノ事業ハ益益前途多端トナリタルカ多年我唱道スル通商平衡問題ハ今後益益其研究ヲ進メラレ我要望スル所ニ接近スルニ至ルヘシト期待セラル

一五四 九月四日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
議題ノ確定及び各委員会ニ同議題付議ノ件

第九号 三日午後ノ第二回会合ニ於テ玖馬代表 Kriente 二十四票ヲ以テ議長ニ當選ス（瑞西代表 Motta 十九票ニテ次点）

（九月六日接受）

次ニ全権委任状審査委員会ノ報告ヲ是認ス代表ヲ発セザリシ連盟国ハ「ボリビヤ」、「ガテマラ」、「ポンジョラス」、「ルクセンブルグ」、「ニカラグア」及秘露ノ六ヶ国ナリ、次ニ議題審査委員会ヲ任命シ新ニ提起セラル問題ヲ日程ニ供スベキヤラ審議セシムルコトトス次ニ議題第一乃至第二十九並ニ議題第三十近東ニ於ケル婦人兒童保護委員報告ノ件ヲ確定議題ト為スコトヲ決シタル上（往電第八五号同第一九一号及同第一九四号）六委員会ヲ構成シ第一法律委員会ニ議題九、十一及二十七ヲ第二専門機関委員会二十、十三、十四及十七ヲ第三軍縮委員会ニセラ第四財政委員会ニ十、十一、十九、二十四、二十九ヲ第五人道一般問題委員会ニ十五、十六、十七、十八、二十八、三十ヲ第六政治委員会ニ八、二十一、二十二、二十五ヲ各付議スルコトニ決シ散会ス

第一委員会ハ Motta	（瑞西）
第二 Maharaia	（印度）
第三 Skirmunt	（波蘭）
第四 Nintchitch	（塞耳比亞）
第五 Melllos Franco	（伯刺西爾）
第六 Hymans	（白耳義）
Robert Cecil	（四十票）
石井 Hanotaux	（四十一票）
Gineno	（三十一票）（西班牙）
Fortoul	（三十一票）（「ベネズエラ」）
Pusta	（三十一票）（「ヒストニア」）

等ノ当選次第総会第三回後ニ於テ副議長ヲ選挙シ

（九月六日接受）
総会各委員会議長及び総会副議長選出ノ件

第一五号

一五五 九月五日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

（九月六日接受）
国際司法裁判所判事ノ補欠選挙、アイルラン
ドノ加盟等ニ関スル件

第一二二号

四日午前各委員会会合議長選挙ヲ行ヒ

五 第四回国際連盟総会関係 一五五 一五六

一七七

（九月十二日接受）

九月十日総会第四回国際連盟総会開会式ハ第一ニ国際司法裁判所判事ノ補欠選挙ヲ行ヒタル處 *Pesca* 三十四票ノ多數ヲ得（理事会ニ於テモ全会一致可決セラレ同國代表ハ挨拶ノ為一場ノ演説ニ基キ満場一致可決セラレ同國代表ハ挨拶ノ為一場ノ演説ヲナセリ次ニ「エストニア」代表「プスター」氏ヨリ日本ノ災厄ニ対シ同情ト弔意トヲ披瀝センカ為休会セントヲ提議シタルニ付安達全權ヨリ鄭重ナル謝辞アリ閉会

二五七 九月十七日

在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

オーストリア復興問題ニ関スル決議案日程審査委
ビ東カレリア問題ニ関スル決議案日程審査委
員会ニ付議ノ件

第三二一號

（九月十八日接受）

九月十一日ノ第五回国際連盟総会開会式ニ於テ壇国復興問題ニ關スル第二委員会報告委員「アドール」氏ハ詳細本問題ノ経過ヲ叙述シ連盟ニ應シキ大事業ノ成功シタルヲ確認シニ協力セル各機関ノ労ヲ多トル趣旨ノ決議案ヲ提出ス次第壇国代表ノ謝辞及南阿代表ノ祝辞アリ十二日ノ第六回国際連盟総会開会式ニ於テ猶波蘭仏國英國伊國西班牙塞耳比代表ノ陳述又ハ祝辞アリタル

事会規則ノ内規約第四条及第六条ノ改正決議ヲ批准セサルモノアル処右ハ規約改正ノ効力発生ヲ妨クル原因ヲナスニ

付第一委員会ヲシテ調査報告セシムヘシト提議シ可決ス和表ス

二五八 九月十八日 山本外務大臣ヨリ
在ジユネーヴ連盟総会代表宛（電報）

学位統一及び国際大学設置案ニ關シテハ詳細
ノ内容累次電報方訓令ノ件

第三三三號

往電第一四四号（西国提議ニ關シ

議題第二十八学位統一及国際大学設置ニ付テハ其趣旨ニ於テ異存ナキモ学位カ *Profession* ト關係スルニ於テハ国内法規トノ關係モアリ又国際大学ノ経費ヲ連盟ニ於テ負担スルコトトナラハ欧洲ノミニ設置スルハ公平ヲ欠クモノト思考セラル處何分詳細ノ内容ヲ知リ得ル迄ハ意見ヲ申進メ難キヲ以テ其都度詳細電報アリ度シ

二五九 九月十八日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

五 第四回国際連盟総会関係 二五八 二五九 二六〇

後總会ハ右決議案ヲ可決シタル次ニ石井全權ハ理事会議長ノ（脱）目下商議進行中ニテ円満解決ニ至ル見込ナレバ本件ニ就キ論議セザラムコトヲ要望シタルガ和蘭代表ハ閉会前ニ本件ニ關スル理事会ノ報告ニ接セムコトヲ希望シタリ

最後ニ理事会事業報告ノ審査ニ入り智利代表ハ汎米会議及南米諸国ノ平和政策ニ就キテ論述シ波斯代表ハ連盟ノ革正ヲ要望シ且近東ニ委任統治地域ヲ有スル大国ガ其波斯ニ対スル取扱振ヲ改メムコトヲ希望シタリ

十三日ノ第七回国際連盟総会開会式ニ於テ問題ヲ引続キ同問題

ヲ議シ支那、「ブルガリア」、希臘、南阿、波蘭、「アルバニア」各代表ノ内外政策又ハ連盟ニ對スル祝辞又ハ希望ノ陳述アリ「リツニア」代表ハ総会議題二十三ノ提出理由ヲ説明シ芬蘭代表ハ東部「カレリア」自治問題ニ關シ（総会ハ本件カ国際問題ヲ構成シ連盟ノ活動範囲ニ屬スルコトヲ認メ理事会ニ於テ問題ノ真相ヲ鮮明ニスル為必要ナル法律上ノ手段ヲ執ラン事ヲ求メ且露國ト交渉ヲ試ムルコトアルヘキ列國カ東部「カレリア」ニ關スル國際取極ノ存立ヲ闇却セサラン事ヲ希望スル旨）ノ決議案ヲ提出シ総会ハ之ヲ日程審査委員会ニ付議ス又「ニュージーランド」代表ハ理

説明シ芬蘭代表ハ東部「カレリア」自治問題ニ關シ（総会ハ本件カ国際問題ヲ構成シ連盟ノ活動範囲ニ屬スルコトヲ認メ理事会ニ於テ問題ノ真相ヲ鮮明ニスル為必要ナル法律上ノ手段ヲ執ラン事ヲ求メ且露國ト交渉ヲ試ムルコトアルヘキ列國カ東部「カレリア」ニ關スル國際取極ノ存立ヲ闇却セサラン事ヲ希望スル旨）ノ決議案ヲ提出シ総会ハ之ヲ日程審査委員会ニ付議ス又「ニュージーランド」代表ハ理

本邦首都ノ災厄ニ対シ国際援助ヲ攻究スベク

知的協力委員会招請ノ件

（九月十九日接受）

第三三三號

第五委員会ハ九月十七日ノ會議ニ於テ波斯代表ノ提案ニ係ル左ノ決議ヲ満場一致ヲ以テ可決セルニ付奥山委員ヨリ謝意ヲ表セリ（第五委員会ハ日本ノ首都ニ於ケル大学及図書館ノ受ケタル災厄ヲ悲シミ其ノ文学及科学ニ關スル蒐集品ノ回復ヲ容易ナラシムル為國際的援助ノ方法ヲ攻究スル様知的協力委員会ヲ招請ス）

二六〇 九月十八日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

常設保健機関構成案採択ノ結果本邦委員ノ常

置ニツキ意見具申ノ件

（九月十九日接受）

第四回国際連盟総会ハ九月十五日往電連第一二二号ヲ以テ電稟セル常設保健機関構成案ヲ採択セルニ付來ル十月開催ノ巴里万国公衆衛生事務局理事会ハ之ヲ採用スヘク從テ現時ノ仮保健委員会ハ自然消滅トナリ常設機関ハ其構成案ニ依リ組織セラル次第ナル處本邦ハ結局衛生協約ニ加入シ居ラ

サル関係上連盟維持諮問機関タル上記巴里事務局ニ委員ヲ有セス從テ今後本邦カ連盟保健委員会へ委員ヲ派遣スルコトニ關シ大ナル不便ヲ感スル次第ナルニ付本邦委員選定ノ手続ヲ容易ナラシムル為至急羅馬協約ニ加入シ巴里事務局ニ委員ヲ有スルコトトナスクト必要ト認メラル何分ノ儀回電アリタシ

二六一 九月二十日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

婦人児童問題、保健機関問題等ニ関スル決議

案可決ノ件

第三七号

(九月二十二日接受)

九月十五日午前ノ第九回會議ニ於テ和蘭代表婦人児童問題ニ関スル第五委員会ノ報告及決議案ヲ提出シ(往電第二十一号参照)支那、英國、瑞典及仏国各代表ノ陳述アリタル後可決次ニ安達全權ハ保健機関ニ関スル第二委員会ノ報告及第一巴里混合委員会ノ常設保健機関組織案ヲ是認スル事(往電連第一二三号参照)

第一、委任統治年報ノ衛生ニ関スル部分ヲ保健委員会ニ交付シ注意事項アレバ委任統治委員会ニ申出デシムル事

二六二 九月二十二日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

經濟委員会行政報告及ビ同決議案審査ノ件

別電

同日連盟総会代表発伊集院外務大臣宛電報第三九号

総会報告中ニ追加スベキ經濟委員会ニ對スル希望項目

第三八号

(九月二十三日接受)

九月十五日十七日ノ第二委員会ハ報告者和蘭委員提出ノ經濟委員会行政報告及其ノ決議案ヲ審査ス
決議案ノ概要ハ総会ハ第一來ルヘキ税関手続國際會議ハ國際通商上ノ必要ニ鑑ミ成ルヘク參加國ノ多カラムコトヲ望ミ(脱)外人企業ニ對スル公平待遇ニ關シ制定セラレタル

勧告案ヲ諒トシ理事会カ各國ニ對シ相互間ノ協定ニ依リ或ハ各國国内法ノ適用カ右勧告案ノ主義實現ニ便ナラシムル様努メラレタキ旨為シタル勧告ヲ裏書ス第三為替手形統一及真偽ナキ商品ニ對スル消費者保護問題ニ關スル經濟委員会ノ結論ヲ諒トシ尚經濟統計統一及不正競争取締ニ對シ猶ホ研究続行ノ旨ヲ承認ス第四失業問題ニ關シ労働事務局トノ協力及更ニ進ンテ失業問題ニ關連シテ經濟恐慌諸問題ノ研究ヲ開始スルコトヲ承認ス第五經濟委員会ノ決議セシ議事録作製上ノ改善其ノ他印刷物配布上出來得ル限り節約ヲ為スノ儀ハ経費節減ノ上ニ至当ナル処置ニシテ之ヲ遵奉スヘシ

安達ハ上記決議案ヲ賛成スルト共ニ今回理事会カ經濟財政

委員会ノ業績ニ徵シ其ノ重要ヲ認メテ之ヲ永続的ノモノト為シタルヲ裏書シ更ニ同委員会ニ對シ今後一層重大ナル諸問題ノ研究ヲ嘱望スル旨ノ一条ヲ加ヘムコトヲ提案シタル處全会ノ同意ヲ得結局安達案ヲ加ヘ前記決議案全部採用セラル次ニ安達ハ総会ノ報告中經濟委員会ニ對スル総会ノ希望トシテ別電第三九号ノ五項ヲ追加セムコトヲ提議シ議論百出要スルニ主義ニ於テモ内心反対ナルモノ極メテ多ク凡

仲裁条項ニ關スル條約案字句ニ明確ヲ欠クノ点アリトシテ小委員会ニテ校正シ次イデ本委員会ニ於テ之ヲ可決シ総会ハ該条約案ニ對シ直ニ各國ノ署名ヲ求ムル事トスル旨ノ決議案ヲ採用ス因ニ本邦側ハ質疑ノ点ニ對シテ
(一)紛争原因ノ何タルヲ問ハズ仲裁ハ總ベテ契約ニ依リ發生シ其以外ニ發生スルモノナシ
(二)仲裁ヲ締約國以外ノ國ニ於テ行フベキ事ヲ当事者間ニ定メタル場合勿論其ノ定メタル國ニ於テ行フ事何等支障無ク

即チ締約国以外ノ國ヲ含ムモノナリ

(3) 契約記載ノ仲裁手続ガ国法ニ依リ行ハレザル場合ハ国法規定ノ手続ニ従フベキ事ヲ確メタリ

(別電)

同日連盟総会代表発伊集院外務大臣宛電報第三九号

総会ノ報告中ニ追加スベキ経済委員会ニ対スル希望項目

第三九号 別電 (九月二十三日接受)

(1) 日本委員ハ経済財政仮委員会ノ業績ヲ多トン且通商上ノ外国人待遇及外国企業ニ関スル同委員会作成ノ綱領ヲ審査スルコトヲ幸トス又委員会カ一国富源昂進ニ関スル外国人協力ノ問題ニ尽瘁シタルヲ熟知ス而モ其ノ昨年総会ニ對スル報告書ニ関シテハ本問題ハ決定ノ氣運ニ達セサルモノト認メラレタルカ國家國際通商ノ増進完成ニ關スル極メテ重大ナル問題ノ存スルニ鑑ミ本委員会カ來ル総会前其意見ヲ表明スル為ニ連盟規約第二十二条ノ通商平衡待遇ノ基礎的原則ノ適用タル本問題ニ付適當ナル考慮ヲ加フヘキコトヲ勧奨ス

(2) 本委員会ハ現在迄其勧告案ニ於テ課税上ノ外国人ノ待遇及其企業ヲ規定スルニ止リタル処日本委員ハ各連盟国ハ外

力ナダ提案ノ連盟規約第十条改正ニ関スル件

第四〇号 (九月二十三日接受)

第一委員会決議其ノ一

(1) 往電連第八五号ノ件
大勢修正案ヲ排シ理事会ガ第十条ノ義務ヲ履行スベキ手段ヲ具申スルニ当リ若シ軍事的措置ヲ執ルベキ場合ニハ加奈陀案ハ他ノ措置ニ言及セズ從テ経済的措置ノ如キハ考慮外ニ置カル各國ノ地理的地位及特殊ノ事情ヲ參酌スベク而シテ兵力使用ニ就テハ各國憲法上ノ機関ニ決定權有ルモ理事会ノ具申ハ誠意ヲ以テ考慮セラル可キモノナリトノ趣旨ノ解釈的決議ヲ可決ス

(2) 往電連第一九六号ノ件
第五回総会迄討議延期ニ決ス

二六四 九月二十五日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

第五回アヘン委員会ノ決議中本邦ニ直接關係

アル事項ニ關スル件

第四六号

(九月二十七日接受)

九月二十一日第五委員会ハ第五回阿片委員会ノ決議事項

五 第四回国際連盟総会関係 二六四 二六五

国人力商工業上自國人ト同等ノ待遇ヲ受クル為外国人ニ供与スヘキ更ニ一般的便宜ニ付考慮スルヲ要ストノ意見ヲ有ス

ス

(3) 本勧告案ヲ通ジテ Etat, membre de la Sociétéト規定スル處右 état ナル明記ハ特ニ極メテ困難ナル問題ヲ惹起スルコトアルニ鑑ミ日本委員ハ右 état ナル文字ヲ削除センコトヲ勧奨ス

(4) 沿岸貿易カ地方ニ依リ本国ト人類ノ公道タル大海ヲ隔テタル遠隔ノ領土トノ航海ヲモ意味スルコトハ國際通商平衡待遇ノ一般精神ニ適応セサルモノト認ム依テ日本委員ハ委員会カ現在迄ニ完了セル其ノ研究ノ結果ニ基キ交通委員会ト協力シ更ニ其ノ審議ヲ繼續セんコトヲ希望ス

(5) 日本委員ハ是等諸問題カ総会第二委員会ノ報告書中ニ掲

ケラルコト望マシト考フルモ会期切迫ノ際ニ付九月七日

理事会ノ創設ニ係ル經濟財政委員会カ適當ノ時期ニ於テ他

ノ主要問題ト共ニ緊急ナル右問題ノ研究ニ從事センコトノ希望ヲ表明スルニ止ムヘン

二六三 九月二十三日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ

伊集院外務大臣宛(電報)

本委員会決議事項ニ關シ(以下脱)

二六五 九月二十五日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

知的協力委員会関係事項ノ決議案ニ關スル件

二八三

第四七号 (九月二十六日接受)

第五委員会ニ於ケル知的協力委員会關係事項左ノ通り
総会ニ対シ左記決議ノ採用ヲ提議ス

(一) 現在委員ヲ出シ居ラザル諸国要求ニ基ク知的協力委員会
委員数増加ノ件

(二) 既ニ存立シ及将来設立セラルヘキ諸国知的委員会(Com-missions Nationales)ヲ中心トシ諸国民相互間ノ知的協助増進ニ關スル件

(三) 知的協力委員会事務局ヲ大学情報国際事務局 (Bureau International des Renseignements Universitaires)リ被更ノ件

(四) 図書館ノ事業ニ關スル件

(五) 往電第三三三号ノ件

(六) Propriété scientifique 保護案ニ關スル件

(七) 伊国「カブリ」島ニ在ル修道院ヲ諸国芸術家ノ使用ニ供セントノ同島庁ノ申出ニ關スル件

(八) 児童及青年子女ニ國際連盟ノ觀念思想ヲ普及スル措置ノ採用ヲ各國政府ニ勧説ノ件

二六六 九月二十六日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ

伊集院外務大臣宛(電報)

會議議題ノ変更及ビ理事会諸報告審査ニ關ス

ル件

第五一號 (九月二十七日接受)

九月二十一日ノ第十回会議ニ於テ議題二十二「エストニア」少數民族問題ハ理事会ニ於テ解決ヲ見タレバ之ヲ日程ヨリ削除スルニ決ス又理事会ヨリ回付サレタル伊国赤十字社長 Ciraolo 氏ノ提出ニ係ル災害ヲ受ケタル人民ノ國際的救助事業ヲ組織スル件ハ之ヲ確定議題トシ第五委員会ニ付託ス次第理事会諸報告ノ審査ニ入り瑞西代表「モッタ」氏ハ規約改正ヲ特ニ第二十六条ノ改正ノ効力発生ノ速カナラノコト大國ガ義務的裁判ヲ受諾スルコト伊希問題ニ關シテ

惹起サレタル法律問題特ニ政府ノ政治的犯罪ニ對スル責任問題ノ妥当ナル解決ヲ見シコトヲ希望シ蘭国代表「ルードン」氏ハ専門家ノ協力ヲ以テ理事会ガ右法律問題ニ決定ヲ下シタル時ハ其通知ニ接セシコトヲ希望シ石井全權ハ伊希問題ガ終局的解決ヲ見タルコト及理事会ガ同問題ニ關連セル法律問題ヲ審査スルコトニ決シタル旨ヲ報告シ諾威代表

「ナンセン」氏ハ賠償問題解決ノ速カナルコトヲ希望シ又

委任統治問題ニ關シ第六委員会ニ理事会及委任統治委員会ノ報告書審査ヲ付託スヘシト提議シテ採択セラル丁抹代表

「ザーン」氏ハ世人ガ連盟ニ対シ一斉ニ失望ノ声ヲ洩ラセルコトニ付總会ノ注意ヲ喚起ス

二十一日ノ第十一回会議ニ於テ印度代表「ムハラジャ・ヲブナワナガル」氏ハ伊太利ガ連盟ノ権能ヲ認ムルコトヲ希望シテ連盟ハ小國ノ要塞ナリト云ヒ南ア代表「マレー」教授ハ各國ノ連盟協會ノ名ニ於テ賠償問題ガ当事国間ノ交渉然ラサレハ連盟ノ調停ニ依リテ解決セラレンコトヲ希望シ尚理事会ノ少数民族保護ニ關シ執リツツアル手続ノ審査ヲ

第六委員会ニ付託センコトヲ提議シ採択セラル最後ニ瑞典代表「ウェルテンベルグ」氏ノ陳述アリテ理事会事業報告ノ審査ヲ終レリ

尚第一委員会ノ報告ニ基キテ規約第十六条改正問題ハ次回総会ニ延期シ第二委員会ノ報告ニ基キ交通委員会ノ事業ニ満足ヲ表スル趣旨ノ決議案ヲ可決シタリ

二六七 九月二十六日 在ジュネーブ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

二六八 九月二十六日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ

議題ノ確定及ビ連盟規約第十条ノ解釈的決議

案採決ノ件

第五三号 (九月二十七日接受)

九月二十四日ノ第十二回会議ニ於テ議長ハ震災ニ際シ同情ヲ寄セラレタルニ対スル帝国政府ノ謝意ヲ伝達セル石井全權ノ書簡ヲ朗読シタル後議事ニ入り「ボイスカウツ」及

「ガールガイズ」ニ旅行ノ便宜供与方ニ関スル智利ノ提案ハ之ヲ確定議題トシ第五委員会ニ付託シ經濟財政委員会ノ事業ニ関スル第二委員会ノ報告（往電第三十八号及第三十九号）ヲ可決シ次イデ第一委員会ノ協約第十条ノ解釈的決議案（往電第四〇号）ノ提出アリテ閉会二十五日ノ第十三回會議ニ於テ右解釈決議案ニ関スル加奈陀、仏蘭西、和蘭、希臘及英國代表ノ賛成演説、波斯及巴奈馬代表ノ反対演説及「エストニア」代表ノ棄権ノ声明アリ第一委員会議長ハ妥協ノ精神ニ訴ヘ全会一致採択セム事ヲ要望シ投票ヲ三日間延期セン事ヲ提議シタルモ結局賛成二十九票棄権十票反対一票（波斯）ニテ否決セラレ因ニ總会ハ右投票ノ結果ヲ理事会ニ通告スルニ決シタリ

二六九 九月二十八日

在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

規約改正決議批准促進措置、委任統治委員会

事業等ニ関スル決議可決ノ件

第五四号

（九月二十九日接受）

九月二十六日ノ第十四回国會議ニ於テ第一委員会ノ報告ニ基キ規約改正決議批准速成ノ為事務総長ヲシテ各國全權ト交

国政府ニ移牒シ其意見ヲ求メ之ニ基キ適當ナル提議ヲ總会ニ提出セシムルコト

(二)往電第五三号智利提案（「アイルランド」代表ノ提案ニ依リ修学旅行者ヲモ含ムコトトナル）ニ関シ各種便宜供与方ヲ連盟国政府ニ勧請シ倫敦「ボライスカウト」國際事務所ヲシテ連盟事務局社会部ト協力セシムルコト

(三)露國避難民及近東ニ於ケル希臘避難民救助ニ関スル件

在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

アヘン問題、知的協力問題等ニ関スル報告可

決ノ件

第五六号

（十月一日接受）

連盟国分担金、エティオピア加盟等ニ関スル

第五七号

（十月一日接受）

九月二十七日ノ第十五回及第十六回国會議ニ於テ第五委員会ノ阿片問題ニ關スル報告アリ（往電第四〇号）印度代表ハ

阿片ヲ有効ナル薬品ト看做ス旨ヲ声明シ波斯代表ハ阿片ニ代ハルベキ他ノ產物ナカルベカラズトノ留保ヲ為シ統イテ支那英國和蘭仏国代表ノ賛成演説アリタル後可決セラル同委員会ノ知的協力問題ニ關スル報告（往電第四七号）ハ羅馬尼「ベネズエラ」支那英國葡萄牙瑞典代表ノ知的協力問題ニ

涉督促セシムル趣旨ノ決議ヲ可決シ第六委員会ノ報告ニ基キ委任統治委員会ノ事業ヲ称賛シ委任統治國ト協力シテ土人ノ福利ヲ増進セソコトヲ希望シ「ボンデルツワット」地方ノ全ク静穏ニ帰セム事ヲ要望スル趣旨ノ決議ヲ可決ス松田公使ハ日本カ規約ノ精神ニ遵ヒ多大ノ財政上ノ負担ヲ忍ヒ土人ノ福利増進ニ努メツツアル事ヲ高調スル演説ヲ為セリ尚第六委員会ノ報告ニ基キ理事会ニ伝達セラレタル少數民族ノ請願書ハ請求スル何レノ國ニモ之ヲ送付セシムル趣旨ノ決議ヲ可決シ第四委員会ノ報告ニ基キ分担金未払國ノ内特ニ負担ノ輕減ヲ必要トスル國ニハ千九百二十二年ノ分担率ヲ同年以前ニ遡リテ適用スル事ニ決シ且同委員会ノ報告ニ基キ連盟総会会場新築問題ノ審議ヲ明年ニ延期スルニ決ス

二七〇 九月二十九日

在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

第五委員会ヨリ總会ニ各種決議案提議ノ件

第五五号

（九月三十日接受）

九月二十六日第五委員会ハ左記決議ノ採用ヲ總会ニ提議ス
(一)往電第五一号Ciraojo氏提案ニ關シ理事会ヲシテ之ヲ各

員会ニ代表者ヲ出ダサムトスル要求又ハ賛成演説アリ且安達全權ノ日本大學図書館復興ニ關スル決議ニ就テノ謝辭アリタル後可決セラル同委員会ノ学位及教授制度災厄ヲ受ケタル人民ニ對スル國際的救助事業露國及希臘避難民救助及近東ニ於ケル婦人小兒保護ヲ任トスル委員ノ事業ニ關スル報告モ亦可決セラル

猶第一委員会ノ報告ニ基キ小國理事ノ選挙手続ニ關シテハ大体前年ト同一ノ規則ヲ採択シ第六委員会ノ報告ニ基キ議題二十三「リツアニア」ノ要求ハ次回總会ニ延期シタリ

二七一 九月三十日

在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

決議採択ノ件

第五八号

（十月一日接受）

九月二十八日ノ第十七ヨリ第十八回国會議ニ於テ第四委員会

ノ報告ニ基キ(一)千九百二十四年予算総額二千三百三十二万八千六百(脱)(二)一千九百二十三万三千六百三十五金法タルヘキ旨ヲ決議(二)千九百二十四年度経費分担率ニ關スル決議(連盟國ニ

配分セラレタル總「ユニット」ハ九百三十ナリ)及(三千九百二十二年度決算ノ承認財政規則ノ改正 Juru 生活費ノ高低ニ応スル職員俸給額ノ決定方法職員ノ恩給ニ関スル原則ヲ含メル決議ヲ可決シタリ尚第六委員会ノ報告ニ基キ「エシヲ。ピ一」ノ加入ヲ許可シ奴隸問題ノ調査ヲ継続スルコトヲ理事会ニ依頼スル決議ヲ採択シ第五委員会ノ報告ニ基キ「ボーアスカウツ」等ニ旅行ノ便宜許与方ニ関スル決議(往電第五五号)ヲ可決ス最後ニ理事会議長トシテ石井全権ヨリ理事会カ法律家ノ委員会ヲ設ケ五個ノ法律問題ニ付審査報告セシムルニ決シタル旨ヲ報告シタル所「ブランチング」氏及「セシル」卿ノ國際司法裁判所ニ付議スルノ妥当ナルコトヲ指摘シタル声明アリ続テ諾威、南阿、波斯、「フィンランド」、愛蘭、丁抹、「コロンビー」、和蘭及印度代表ノ其立場ニ関スル声明アリテ後閉会シタリ

二七三 九月三十日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

連盟経費本邦分担率輕減ノ件

第五八号 (十月一日接受)

連盟経費本邦分担率減少ノ件ハ希臘、羅馬尼亞、洪牙利、

第五八号

次デ右小委員会ハ来年度ニ於テハ原則トシテ千九百二十三年度ノ分担率ヲ実行スルコト唯日本ニ対シテハ第四委員会ノ決議ニ従ヒ其ノ分担率ヲ六十一ニ減少スルコト新加入国

愛蘭ニ十ヲ配分シ其ノ結果英國ニ対シ七ヲ減少セントスル報告ヲ提出シタリ第四委員会ハ右報告ヲ採用スルト共ニ前記諸国側ヨリノ輕減要求中事情同情スベキモノアルヲ以テ愛蘭及「アビシニア」ノ加入ニ依リ増加シタル五「ユニット」ヲ分担問題専門委員会ヲシテ適宜輕減要求國ノ「ユニット」減少ニ充テシムルコトヲ決議セリ

二七四 九月三十日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

伝染病委員会及ビ軍縮問題ニ関スル各報告可

決ノ件

第六〇号 (十月一日接受)

九月二十九日ノ第十九回及第二十回会議ニ於テ第四委員会ノ伝染病委員会ニ關スル報告及第三委員会ノ軍縮問題ニ関

スル報告往電第五九号ヲ可決ス小国理事ニハ「ウルグエ」四十票、伯刺西爾三十四票、白耳義三十二票、瑞典三十一票、「チエッコ」三十票、西班牙三十票當選ス最後ニ

波斯、葡萄牙等ノ諸国ヨリ提出セル同様ノ請求皆否決セラルヘキ状態ニアリ我要求モ亦同様ノ運命ニ遭遇スヘキ情勢ナリシヲ以テ差控ヘ之カ提出ノ理由及時期ニ関シ形勢ヲ窺ヒ居タル處九月七日塊國救済問題第二委員会ニ付議ノ際安達全権ハ塊國ニ対スル同情ヲ述ブル序ヲ以テ今次大震ノ状況ヲ説明シタル處各員ニ深甚ナル感動ヲ与ヘタル由ニテ翌八日仏國委員ハ非公式ニ安達全権ニ対シ國際連盟ハ日本ニ對シ何等物質的ノ同情ヲ与フル義務アルモノト信スル処連盟現在ノ財政上之ヲ実現セシム可キ方法ナキモ経費分担率ノ減少ヲ為サハ間接ニ幾分之ヲ実現スル事トナル次第ナルカ如何ト尋ネタルニ付安達全権ヨリ連盟国全体ヨリ全ク自発的ニ之ヲ行ハルニ於テハ日本国民ニ於テ特ニ感謝ノ意ヲ以テ之ヲ迎フヘシト答ヘ置キタリ次テ十三日第四委員会ニ於テ仏國委員ハ人的又ハ物的ニ大災害ヲ蒙リタル國ニ対シ一時其分担率ヲ輕減スルコトハ已ニ承認セラレ居ル原則ナルヲ以テ今回ノ日本ノ大災害ニ対シ右原則ヲ適用スル事トシ合致的輕減案ヲ本件ヲ審議スヘキ小委員会ヲシテ作製セシメン事ヲ提議シタル處第四委員会ハ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

議長ノ閉会ノ辭アリテ閉会ス

二七五 十月五日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

第四回連盟総会開会、石井全権演説及ビ震災

二対スル同情ノ決議案可決ノ件

第八号 (不着電報再電)

(十月六日接受)

第四回連盟総会ハ石井全権議長ノ下ニ九月三日午前十一時開会劈頭石井全権ヨリ約四十分間ニ亘リ連盟ガ過去一年間ニ遂行シタル事業ヲ叙シ其ノ将来ノ発達ニ対スル希望及確信ヲ披瀝シタル演説アリ(右ハ連盟事務局ヨリ即日無線電信ニテ其ノ全文ヲ各国ニ打電ノ筈ナレバ省略ス)次ニ濠州代表ハ連盟総会ノ名ヲ以テ日本政府及国民ニ対シ今回ノ震災ニ就キ深厚ナル同情ヲ表スル旨ノ決議案ヲ提出シ智利及波斯ノ各代表ヨリ熱心ナル賛成演説アリ會議ハ満場一致之ヨリ先本邦震災ノ報道当地ニ伝ハルヤ各國側ヨリノ見舞引キモ切ラズ前記決議案ノ提出ニ就テモ各國全権争ウテ其ヲ可決ス右ニ対シ石井全権日本政府及国民ノ名ヲ以テ謝辞ヲ述ブ

理由ニテ濠州代表提案者ト為リ又提案者タランコトヲ切望シタル智利及波斯ノ各代表ニハ提案支持ノ演説ヲナサシムルコトニ纏マリタル様ノ次第ナリキ最後ニ委任状審査委員八名ヲ指名シ散会ス

事項六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題

二七六 一月二十日 在パリ安保海軍中将ヨリ
井出海軍次官宛(電報)

連盟事務局ニ提出セルセシル相互保障条約案

ノ概要報告ノ件

(一月二十一日海軍省着)
海盟第七四号

第三回連盟総会決議第十四ニ基キ「セシル」卿ハ相互保障条約ニ關スル一案ヲ事務局ニ提出セリ該案ハ七章二十二条ヨリ成ル其概要左ノ通

第一章ハ軍備縮減並ニ相互救援ニ關スル一般条項並軍事通報機関トシテ理事会ノ任命セル軍事代表者ヲ各締約国ニ派遣スヘキヲ規定ス

第二章ハ締約国カ受クル特殊ノ脅威ニ關シ理事会ノ採ルヘキ手段ヲ規定ス

第三章ハ締約国ノ一員カ規定ノ制限ヲ超過セル軍備ヲナシタル場合採ルヘキ処置ヲ規定ス

第四章ハ戦争開始ノ際何レノ國家カ侵略國ナルカラ決定スヘキ手続ヲ規定ス

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二七六

第五章ハ現ニ侵略ヲ蒙リタル國家ヲ救援スヘキ軍事手段ニ就テ其方法ヲ規定セルモノニシテ第十四条乃至第十七条

ヨリ成ル

其内第十六条及第十七条ハ稍々具体的ノモノナル故全文ヲ左ニ掲ク

第十六条被侵略国ニ対スル軍事援助手段

イ、締約国ハ侵略国ニ対抗シテ締約国カ採ルヘキ軍事的方策ノ組織ヲ委托スヘキ一国家ノ大本營カ關係各國軍

ノ使用及其安全ニ關スル特別規定ノ下ニ其軍事指揮ヲ執ルヘキコトヲ受諾ス

ロ、締約各国ハ右ノ指揮官ノ下ニ一定ノ兵力ヲ寄託ス而シテ其兵力ハ各国海軍及空軍兵力ノ四分ノ一以上トスハ、締約国ハ是等海軍及空軍兵力ヲ

(一)第十六条(イ)ニ規定セル軍事指揮官ノフル命令ニ依リ若クハ

(二)斯ル指揮官ノ任命ヲ待ツ間被侵略国ノ大本營ノ計画ニ基キ使用スルコトヲ受諾ス